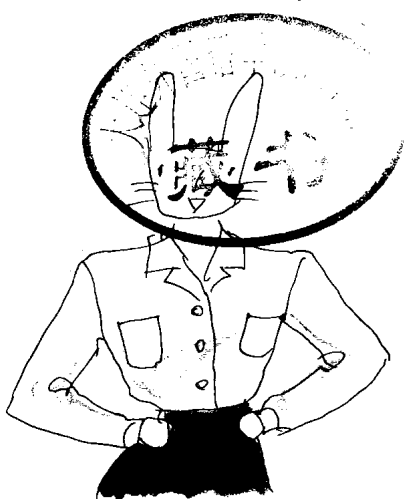


玲子さんの「歩いた街、訪れたお店」



西村玲子

玲子さんの歩いた街、訪れたお店 ● 目次

I 青山・代官山

南青山＊憧れの空間を南青山で見つけた……………6

原宿・下北沢＊宝石より魅力的な「ビーズ」を探して……………10

青山・新宿・目黒・代官山・六本木＊一泊二日。Yさんとのお買物ツアー……………14

外苑前界隈＊若い友人と、午後の外苑散策……………19

代官山＊大人の洗練は、やっぱりこの街から……………23

II 新宿

フラッグス＊元気なファッションビルの出現にわくわく……………26

ホテルセンチュリー・サザンタワー＊新宿のクリスマスはミュージカル気分で……………29

パークハイアット東京＊設えも味も素敵。好きなホテルでの和食……………33

III 東京郊外

- 砧公園・経堂＊歩け歩け、泳げ泳げで日が暮れて……………36
- 西荻窪＊しゃれたもの、庶民的なものが同居する街……………40
- 勝浦＊タラソテラピーで心も身体もリフレッシュ……………43
- 鎌倉①＊古風にもモダンにも似合う鎌倉の萩……………47
- 鎌倉②＊偶然の出会い、フーサさんのお店……………49

IV 大阪・京都・神戸

- 大阪 玉造＊関西方面で気入りのインテリアショップは……………52
- 大阪 西区界隈＊デザインで探索する新感覚ショップ……………58
- 帝国ホテル大阪界隈＊大阪のセーヌ川とも呼びたい自慢の場所……………61
- 大阪 北浜＊一皿ずつが夢のよう『ル・ポンド シェル』……………65
- ザ・リッツカールトン大阪＊クラシックなバーでいい香りに包まれて……………68

京都①＊ひとりじめしたい、東福寺の紅葉……………70

京都②＊美味しい京都を半日かけてそぞろ歩き……………72

神戸＊新しい神戸は『ヨーガン・レール』から……………76

V 琵琶湖

義仲寺周辺＊いつかはきつと桜の季節、琵琶湖へ……………78

滋賀 長浜＊土地ならではの個性的なお店を探したい……………82

VI 北海道

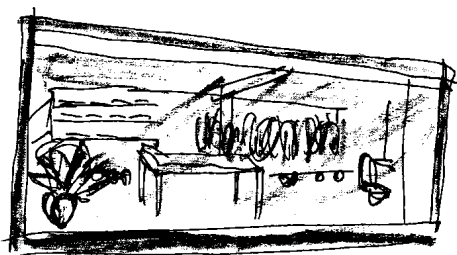
小樽・富良野＊明治のセンス小樽から、湖へのドライブ……………85

札幌 三岸好太郎美術館＊心の宝箱にしまった、蝶の絵との出会い……………91

積丹岬＊紫ピンクの野菊、その先には紺碧の海……………94

あとがき……………102
アドレス・ノート……………96

玲子さんの歩いた街、訪れたお店



南青山



憧れの空間を南青山で見つけた

「確かこの辺だったのよ」

自信を持って曲がった路は違って、
じゃここかなと曲がったところも違
って、もう一度引き返してみても違
と辿り着いた。

南青山の『A.D.K.』（エイディーケ

イ』という1階がデリカショップと
カフェ、地階にイタリアンレストラ
ン。以前に連れて行って頂いて気に
入ったお店を、友人二人を伴ってや
ってきた。

おしゃれで気持ちのいい空間とは、

こんなお店のことをいうのだ。ロン
ドンのデリカショップにも似たお店
があつて、紅茶やらハーブやら本を
買ったりしたのだが、ここは東京、
緊張なしにリラックスして選べる、
食べられる。そうよ、そうよ、ここ

いうお店が欲しかったのよ。

レストランは天井がかなり高く、
従ってその分が中地下という効果を
成している。片面のガラス窓は上に
高く広く開放的で、光と緑が溢れん

ばかり。

その日のランチは前菜とポルチー
ニのクリームソースパスタ（細めの
マカロニタイプ）、イタリアへ行つて
家庭で出されるお料理という感じで、

なかなか凝っていて美味しい。凝っ
ているというのは、どこの味にも似
てなくて独特だということ。これが
本場の本格派というもののなのよ、イ
タリア旅行で食べた味に再び出会え
たのよ。思い出の中の味と結びつい
た一瞬であった。

前回はデイナーだったが、日中の
光の中のことも素敵。そうか、イン
テリアというのはお昼と夜の雰囲気
の違いも楽しむものなのだ。ふむふ
む、と家のリフォーム間近の私は当
然のことを頭の中に刻みつける。

1階のデリカでパンとケーキを買
う。少々高めなのかな、と思われる
サンドイッチ（イタリア風）はすご
く美味しいからお薦め。食べると少
しも高くはなくて、お釣りが戻って



羊
が多い。
青山ブックセンター



ビッドログリー
美味い。
アヘン
ハコ屋
サント
ドーシー
富士BANK
原宿 ↑

紀ノ国屋

青山通り

スパイラル
マーケット

アツシユ



アパレルセン
ター
インカネ
可愛い。

2Fの
お茶
ステキ
です。

見て楽しい
コンテナブリー



アートガランスト、チキユ

IDEA

下の花
ショップ

ガステキ

いい
実いました。

パパス
カフェ

ジル・
センター
ドリス・ガラン
ボタン
イデー
パシフィック

地下 ロジャックはエスニック
レストラン

くるような感じだ。

「家を建てるならこんな感じにしたいわね」

「今度はこのカフェでお茶をしまし
よう」

「このお惣菜作れるといいなあ」

などなど様々な思いをインプット
して、ますます賢くなった三人であ
る。

この後はインテリアの『IDEE(イ
デー)』にまつぐ。今は何といつて
もインテリア頭の私、友人だろうと
家族だろうと、たとえ仕事の人であ
ろうと巻き込んでしまうのだ。

いつもと違って、リフォームとい
う大仕事があると、見て回るのも真
剣だ。値段もきちんとチェックする。
自分の部屋に置いたらどうだろう、

他とバランスが取れるだろうか、こ

れを選べば良かったかしら、残念、

だとか。いつもだったら、へえ、フ

ーン、高そう。ホウ、こんなのあれ

ばいいねえ、という軽さがなくて、

きつと目付きも鋭いに違いない。

向かいにあるエスニックインテリ

アの『イデー・パシフィック』を

見終わると、すっかり疲れてしまっ

た。真剣になっても限りある狭い我

が家、何をそんなに力を入れるのよ、

というもう一人の天使が囁いている

のに、もう一人の悪魔か天使か分か

らない子がしゃかりきになって困る。

この日はセールだったから、草の

繊維を編んだクッションカバー（一

枚500円也）を3枚、漆の器を3

個（一個800円）、ブリキのジャグ

（1500円）を買って、まあまあ

満足して帰ることになった。買い過

ぎかなあと少し心配しながら。

宝石より魅力的な「ビーズ」を探して

部屋をリフォームをすると決めたときから、いらないものを処分するいいチャンスだと、神様から罰を与えられるほど捨てた。どんどん捨て、どんどん人にもらってもらい、物は減ったが、まだまだだ。

シンブルに生きるのだから、パッチワークや手作りには熱中しないだろうし、本も食器も、服も本当に好きで必要なものだけで暮らすわ、と生活のダイエットを唱えながら処分する。

それが処分し終わらないうちに新

しい部屋ができてしまった。屋根裏の収納部屋に物を収めて、とりあえずのところはという気持ち。しかしね、やっぱりね、越して7ヵ月というのに、屋根裏の階段を下ろしたことがない。屋根裏のプラスチックケースに入った物たちのことを考える複雑だ。

日が経つにつれて気持ちが微妙に変化する。処分した品々への思いに後ろ髪が引かれる、というか、悔まれるというか、貧乏性は簡単に治らない。ああ、もっと広ければ、もう

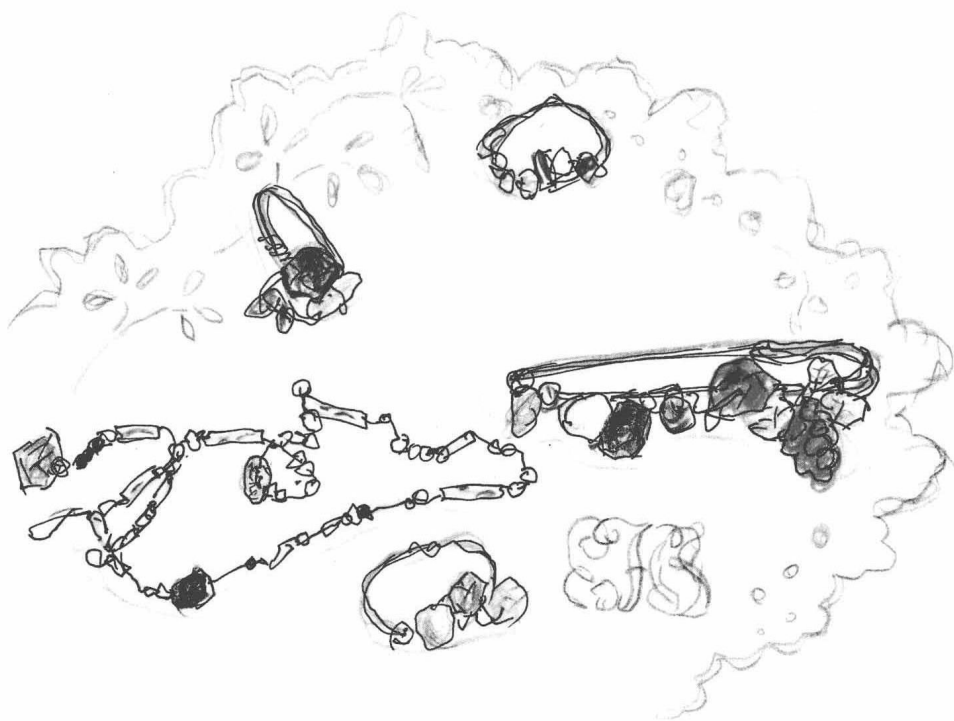
一部屋あれば、と。まあしかし、これってどこまでいってもイタチごっこ、どんなに広くても処分する気持ちは大切なのだ。

熱い冒頭になってしまったが、それは私にとつての第二の手作りブームがやってきたからだ。パッチワークなどもつ私には終わりよ、と布や糸を処分したのに、ある展覧会が引き金になってしまった。

99年5月の終わり、渋谷の文化村ミュージアム『パリモードの舞台裏展』を観た。その素晴らしさを新聞でも書いたし、友人知人、会う人にも興奮して伝える。

「だから絶対観とかないと損するよ、こんな展覧会はきつと最後よ」

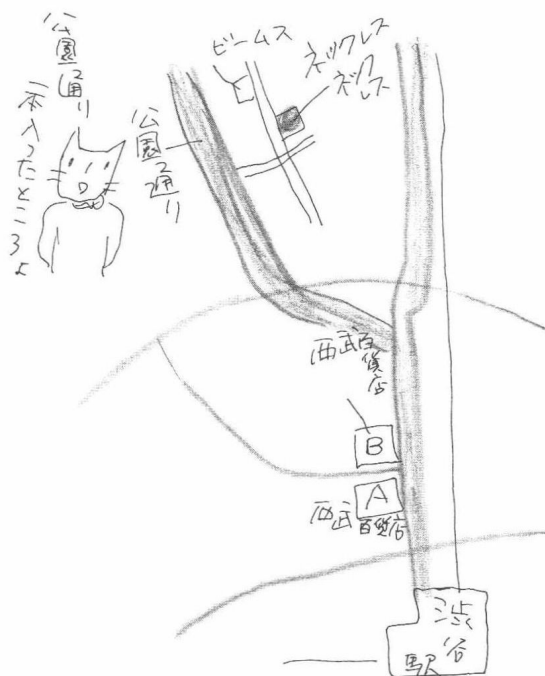
最後というのは大袈裟だが、恐ら



く私が生きている間は、という意味である。それくらいに私は感激した。信じてミュージアムに行った人からは必ず、

「教えてもらって良かったわ、本当に大感激、もう一度観にいくつもり」

というようなお礼が届く。でしよう、と私は得意顔、何で得意にならなければならないのか我ながら不思議だ。こうなってくると、何かの形で参加したかのように自分で錯覚するが、していない。参加しなかった。『パリモードの舞台裏展』では、名前のとおりオートクチュールを作り出すための、様々なアトリエを再現していた。ビーズ、レース、糸、織ボタン、コサージュ、羽根などのアトリエが一つずつ、材料と製作過程



や製品がうっとりとならべられている。
 忘れないようにと、穴のあくほど見
 つめても美しいものほどホワンホワ
 ンと幻になってしまふ。会期中に二
 度通ったけれど、それでは足りない。
 さて、そんなことでクチュールの

アトリエへの憧れが簡単に乗り移り、
 私にとっての第二の手作りブームが
 やってきた。よし、と決心してから
 たいして時間が経たない。やはり好
 きなものからは逃れられないように
 なっているみたい。

ビーズが欲しい。どんな宝石より
 も素敵と思わせるビーズが欲しい。
 お店に出かけてみると驚いたことに
 ビーズはブームだったのだ。どのお
 店も人で混み合う程である。あの展
 覧会に影響された人も少なからずい
 るだろうか。

原宿の『ドログリー』はパリのド
 ログリーのを扱うお店。が、私
 はパリの店を昔から知っているだけ
 に物足りない。やはりパリのセンス
 まで届くことはないのだろうか。ド
 ログリーの経営者の姉弟（出合って
 お話したことがあるが、とても気
 さくな人たちである）は満足してい
 るのだろうか。ま、ともかくここは
 パリではないから、と諦めてビーズ
 を選ぶ。

原宿の遊歩道に入って右側にあるのは『レダ』。久し振りに行ってみた。心なしか様子が変わっていた。心なしか若々しくなったようだ。以前のほうが秘密の隠れ家的雰囲気、ビーズも特別に思えたりしたものだったが。

もう一つ気に入っているのが公園通り一本入ったところにある『ネックレス・ネックレス』。素敵なビーズが揃っているし、レイアウトがいいので探し易い。アンティークのものなどは溜息もの、それだけに値が張る。下北沢『トゥーダルー・カンガルー』も一見メキシコ的なアクセサリー店だ。入ってみると他にないビーズもあって、ぜひこも覗いてもらいたい。

しかし高いのね、ビーズって。あ

つという間に5000円、1万円になってしまふ。一つで500円のガラスビーズを手のひらに乗せて、こねて美味しいうえ、安いお弁当と同じ値段なのだから信じられない

わ、ハア、と溜息つきながらも三つ買った。この魅力には抗えない、不思議さあ、これでいろいろアクセサリーを作ろう。第二の手作りスタートはビーズから。



一泊二日。Yさんの東京お買い物ツアー

奈良で『くるみの木』その他の雑

貨店とカフェを3店も経営している

友人Yさん。新しくなった我が家で

一泊、第一号である。それにしても

彼女はエネルギーである。そんな風にはとても見えないけれど、底

に流れるものが私などとは違う。

12時に東京の我が家に到着。それだけでも偉い。12時にここに来るに

は、朝の7時には家を出るということだ。ちなみに私が大阪の実家に行

くと、午後の7時から8時に、いえ、

もつと遅くなって、

「あんまり遅いから明日かと思った

よ」

と寝間着姿の父が鍵を開けてくれるといったこともしばしば。

その日は他に二人の友人も来てくれて、簡単な持ち寄りランチで楽しい時を過ごした。二人が帰った後、

どこか素敵なところに行きましようよ、とYさん。

仕度をして青山に出る。青山へ来たならば、トリフォームを依頼した

会社のショップ『アツシュ』へ。担当

のKさん、Oさんをまじえて、Yさ

んの完成したばかりの家の話が弾む。

「一〇〇％は気に入ってないんですよ。次は海の見える家を。3軒目に

やっと完全なものをといますもん

ねえ」

「えー、あんな立派で素敵な家なの
に？」

「何なんでしょうね、私って満足することがないんでしょうかね。でも

まあ、気持ちのいい家ですよ、奈良にいらしてくださいね」

Yさんの気持ちもよく分かる。出来上がるまでの努力、それが終わってしまつと、どこかに物足りなさを

覚えて次の対象を探すのだ。それができるだけ彼女はエネルギーだし、自信もあるのだろう。

お店を見て回るにはのんびりして

いられない。次は『イデー』へ。入口の花屋さんで形の良いオリーブの樹を見つける。家をリフォームしたらオリーブの樹が欲しい、と思い続けていたのでホツとする。1万5千円である。フランスのテーブルウェアなどを扱う『アボード』はお休みで、お腹も空いてきたし、

「ホラ、この間の本（間宮吉彦氏の本、大阪の頁で詳しく）に出ていた『UN CAFE（アン・カフェ）』、多分、国連大学の方だと思うの。行ってみる？」

私の提案で夜はそこにした。アン・カフェの前に『青山ブックセンター』がある。本屋さんならここに、洋書も美術書も雑誌も何でも充実している。私はインテリアの洋書2冊



と女性誌のオリーブを買う。Yさんも4冊ほど買って重そうである。あ、ここで忘れていた。ここに着く前に

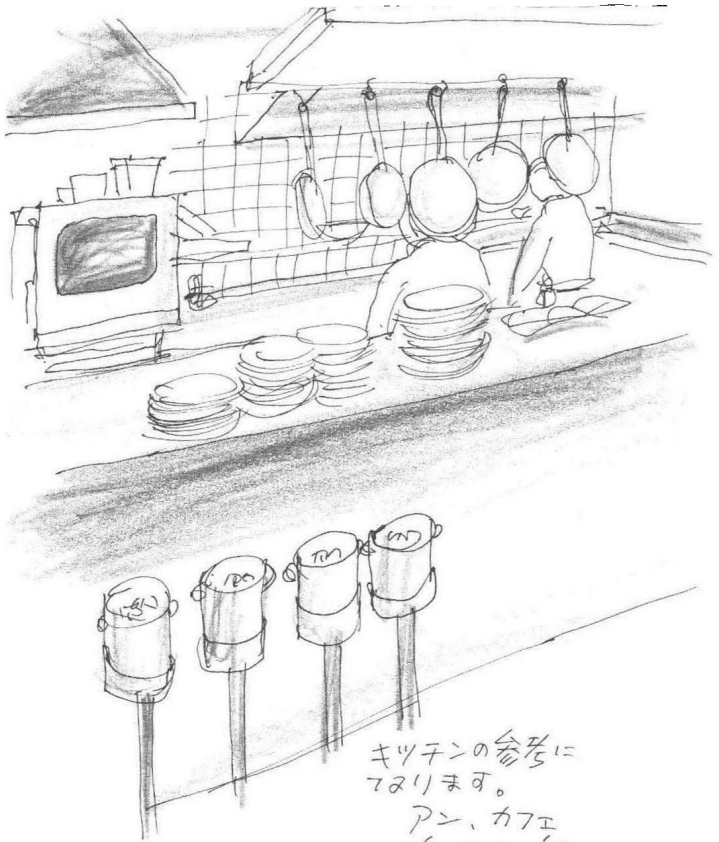
『無印良品』のお店に寄ったことを。私はスリッパを5足、金属のフックを2個買う。Yさんはパジャマを忘

れたので、それ代わりの室内着を買った。黒のスウェットワンピースである。その上本まで買ったから、かなり重くなってしまった。

本で見たアン・カフェと少しイメージが違うような、ま、写真の魔術というものだ。食事もリーズナブルで美味しく、サービスも気持ち良く満足して出る。11時近くになってしまった。

翌朝は英語教室のある日。私はレッスンに、Yさんは雑貨の展示会場を見るため五反田へ。1時に新宿の『ザ・コンランショップ』で待ち合わせた。

そこでも欲しいものを見つけてしまふ。カウンターチェア、新しくなったキッチンに一つあれば便利であ



キッチンの全貌に
なります。
アン・カフェ
(UN CAFE)

る。背と腰掛けの部分にはビニールチューブが巻かれていて、モダンなものだ。コンランショップのあるビルの地下『由庵^{ゆうあん}』でお昼を。お昼は

まあまあの味だが、インテリアがいい。夜はもっと素敵だ。

「ソファを探しているのだけど、何かで『グリーンゲイブルス』のが出